

経営比較分析表／団体全体（平成30年度決算）

神奈川県 横浜市

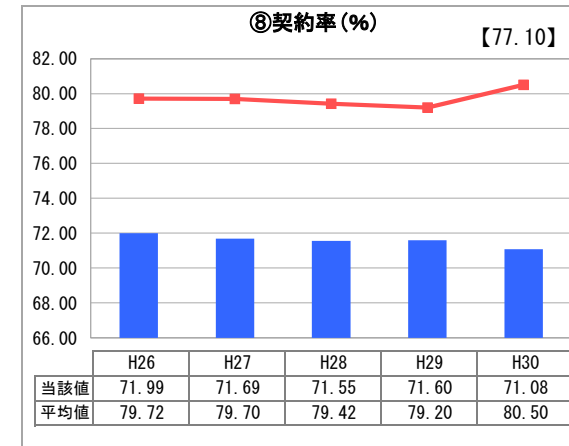
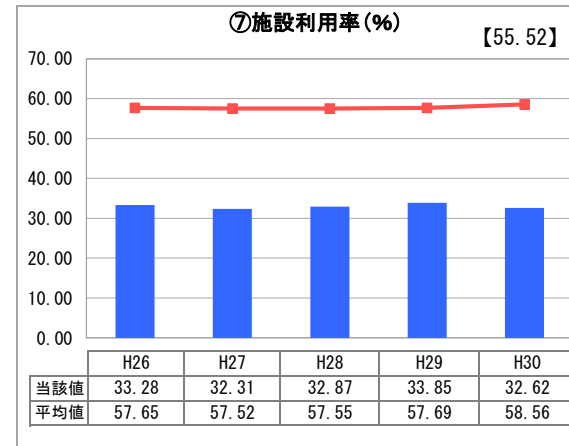
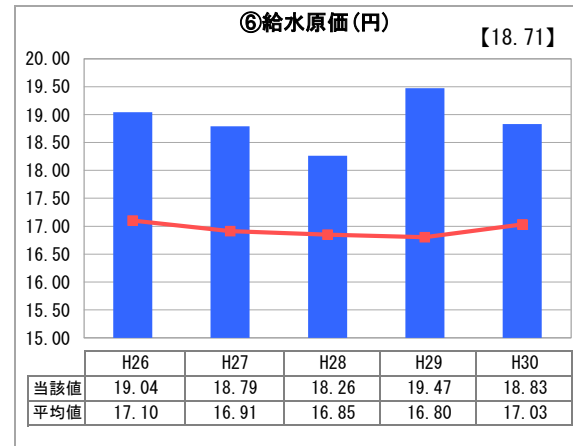
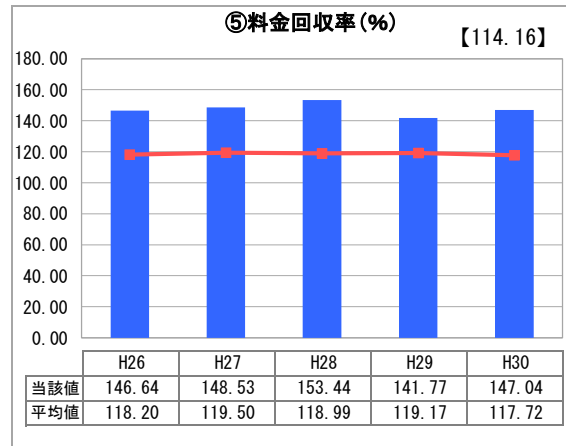
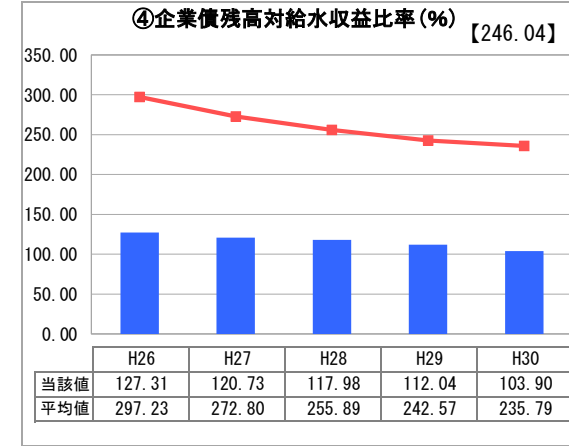
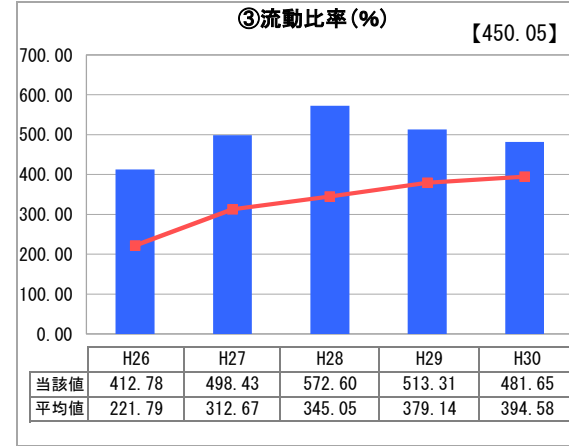
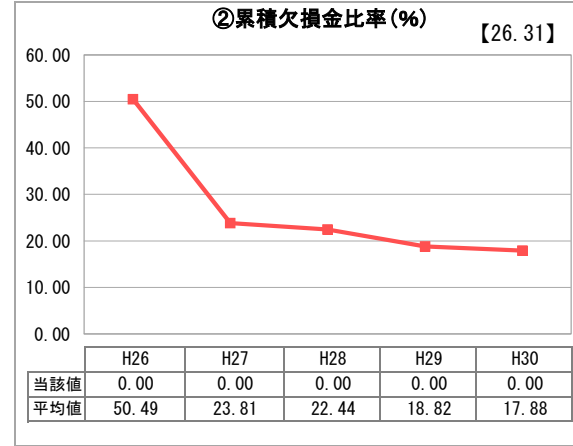
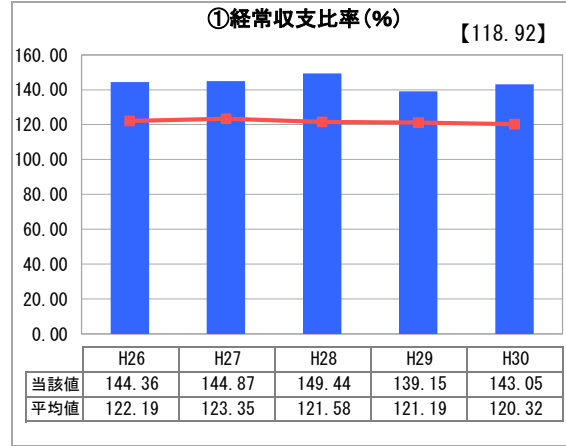
【事業概要】

| | | | | | |
|----------------|---------------------|--|------------------------------------|-----------------|-------------------------------------|
| 業務名 法適用 | 業種名 工業用水道事業 | 現在配水能力(合計)(m ³ /日) 362,000 | 類似団体区分 大規模 | 施設数 1 | 1日平均配水量(m ³) 118,093 |
| 資金不足比率(%) - | 自己資本構成比率(%) 84.1 | 給水先事業所数 67 | 契約水量(m ³ /日) 257,300 | 管理者の情報 自治体職員 | |

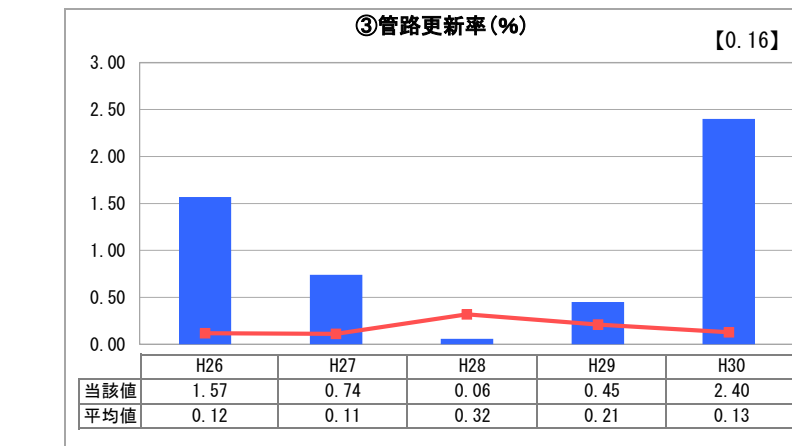
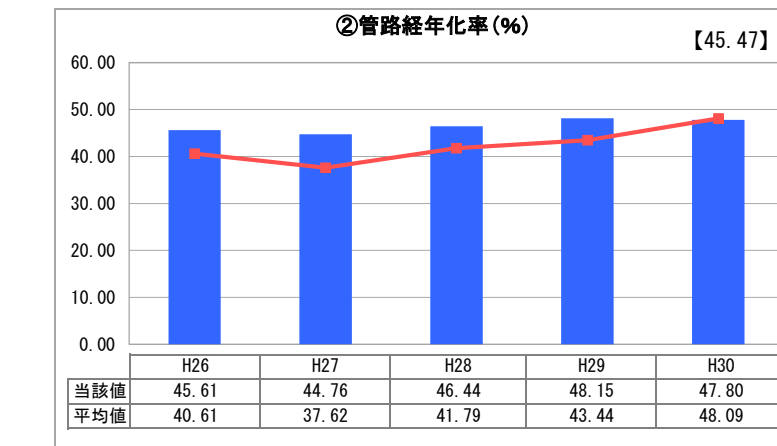
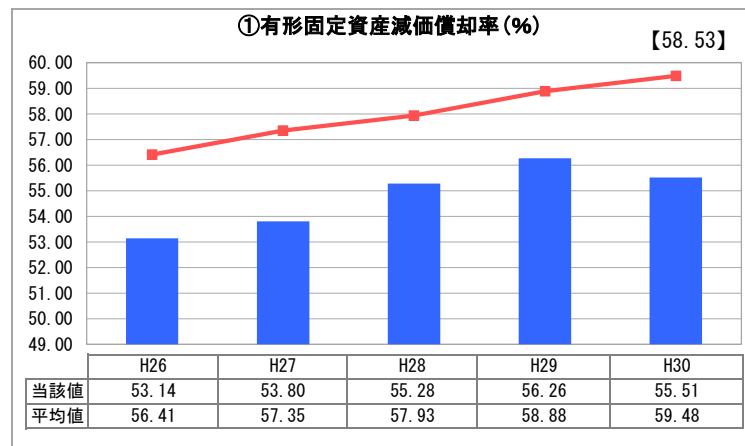
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、人件費や県との共用施設に係る負担金など、費用が減少したため、若干数値が上昇しました。類似団体平均値は上回り、健全な水準を維持しています。

② 流動比率は、類似団体平均値を上回るとともに、100%を上回っているため、短期的な債務に対する支払能力は有しています。

③ 企業債残高対給水収益比率は、事業規模（給水収益）と比較した企業債の残高を示し、経年比較では着実に減少しています。

④ 料金回収率は、類似団体平均値を上回るとともに、100%を上回っているため、給水収益のみで給水に係る費用を賄うことができています。

⑤ 給水原価は、類似団体平均値は上回っている状況ですが、費用が減少したことにより若干下降しました。

⑥ 施設利用率は、類似団体平均値を下回っていますが、近年は30%以上で推移しています。

⑦ 契約率は、類似団体平均値を下回っていますが、近年は70%以上で推移しています。今後も新たなユーザー企業の獲得に向けた取組を進めていきます。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値よりも低い状況にありますが、施設等の老朽化が進んでいます。

② 管路経年化率は、類似団体平均値と同水準にあり、管路の老朽化が進んでいます。今後も法定耐用年数を迎える管路が増えていくため、高水準で推移する見込みです。

③ 管路更新率は、類似団体平均値を上回っています。横浜市では計画的に管路の更新に取り組んでおり、30年度は2.7kmの更新を行いました。

全体総括

経営の健全性・効率性に関する指標が示すとおり、現在の経営状況は概ね良好です。しかし、産業構造の変化等により契約水量は微減傾向にあるため、工業用水道料金収入は今後減少していくと見込まれており、経営は厳しいものになっていくことが想定されます。

さらに、老朽化の状況に関する指標が示すとおり、施設の老朽化が進んでおり、今後多額の更新事業費が必要になることが見込まれます。

こうした状況の下、計画的に施設の更新・耐震化を進めるとともに、国庫補助金など、更新事業費の財源確保に努め、将来にわたって安定給水ができるよう、工業用水道事業の基盤強化を図ってまいります。